



亜鉛不足がフレイルへの悪循環を引き起こします

フレイルとは、高齢者の身体機能や認知機能が低下して虚弱になった状態で、放置すると要介護につながる恐れがあるため、“要介護予備軍”とも言えます。現代の食生活では亜鉛を必要量摂取しづらくなっています。皮膚の障害や傷の治りの遅れにも関わっていると言われてい

ます。当院の NST 初回採血に亜鉛が含まれるようになりました。

■血清亜鉛の基準値(亜鉛欠乏症の診断基準より抜粋)

低亜鉛血症の診断の際には、下記の亜鉛欠乏症の診断基準を考慮します。

亜鉛
欠乏症

60 $\mu\text{g}/\text{dL}$
未満

潜在性
亜鉛欠乏

60~80 $\mu\text{g}/\text{dL}$
未満

血清亜鉛の
基準値

80~130 $\mu\text{g}/\text{dL}$

※血清亜鉛は、早朝空腹時に測定することが望ましい。

元玉 金子 ほか、日本臨床栄養学会雑誌 2016; 38(2): 104-148



院内採用薬品 ノベルジン錠 25mg

ウィルソン病（肝レンズ核変性症）

成人：通常 1 回 50mg を 1 日 3 回経口投与。最大投与量は 1 日 250mg（1 回 50mg を 1 日 5 回投与）です。

※小児については薬品情報参照して下さい。

なお、いずれの場合も、食前 1 時間以上又は食後 2 時間以上あけて投与してください。



低亜鉛血症

成人：1 回 25~50mg を開始用量とし 1 日 2 回経口投与。

※小児については薬品情報参照して下さい。

なお、いずれの場合も、食後に投与してください。



次回も院内採用薬品について紹介します。

毎週木曜 14:30 から NST ラウンドをしています。

栄養にお困りの方はぜひご相談ください。

